

			E Z - W I N総合評価シート			2 1 . 9 . 2 0 中山11R セントライト記念(G2) 3歳OP 芝2200m外 15:45																	
間隔	神の見解	予想印	枠番	馬番	馬名	性齢	負担重量	予想人気	相対指数	トレンド血統	最終調教評価	中間調教評価	脚質前走	脚質2前	脚質3前	血統・人気複率	血統複勝回収値	前距離複率	騎手	調教師	前走不利	レシビ	総合評価点数
9			1	1	美)ベルウッドエオ	牡3	56	13				D	5,8	14,4	10,3	10	97	1	吉田豊	高橋文			29
11			2	2	美)アサマノイタズラ	牡3	56	10	B				13,6	5,16	6,2	18	59	17	田辺裕	手塚貴	展		42
16		△	3	3	栗)ヴィクティファルス	牡3	56	6	B		C		3,14	10,9	8,1	18	58	16	池添謙	池添学	展	短縮	29
16		×	3	4	美)タイムトゥヘヴン	牡3	56	12	C				12,9	7,8	6,2	0	0	3	柴田善	戸田博	R	短縮	26
11			4	5	美)ノースブリッジ	牡3	56	8					1,9	1,15	1,1	24	94	17	岩田康	奥村武			26
20		×	4	6	美)レインフロムヘヴン	牡3	56	9					15,2	15,4	1,4	20	57	16	石橋脩	堀宣行		短縮	42
16		◎	5	7	美)タイトルホルダー	牡3	56	2	A				2,9	2,8	1,4	91	133	50	横山武	栗田徹	R	短縮	57
10		△	5	8	美)レッドヴェロシティ	牡3	56	7	C				6,5	10,8	2,4	38	159	16	M. デ	岩戸孝		短縮	37
5		×	6	9	栗)カレンルシェルブル	牡3	56	14	B			C	4,2	4,3	6,1	0	0	1	横山和	安田翔		昇級	44
38		×	6	10	美)オーソクレース	牡3	56	5					2,7	7,1	5,1	44	94	38	C. ル	久保田			52
19		×	7	11	栗)ルペルカーリア	牡3	56	4	C			C	1,4	2,4	5,1	33	82	38	福永祐	友道康			57
5		▲	7	12	美)ソーヴァリアント	牡3	56	1	A				2,1	3,1	7,1	72	94	62	戸崎圭	大竹正		昇級	69
16		○	8	13	美)グラティアス	牡3	56	3	A				4,11	9,6	3,1	45	91	28	松山弘	加藤征	展	短縮	39
11		★	8	14	栗)ワールドリバイバル	牡3	56	11					2,3	1,14	1,12	24	94	17	津村明	牧田			34

セントライト記念は、前走ダービー負け組が高確率で馬券になるレース。
広く直線の長い東京2400mと、狭く直線が短い中山2200mでは、
おのずと求められる能力が大きく異なるのがその一因でございましょう。

そもそも、世代の中で18頭しか出走できないダービーに
結果はともかくとして、コマを進められたと言うだけで
普通のトライアルレースでは格上の存在でもある訳でございますな。

◎7番タイトルホルダーは、父がドゥラメンテで、
母父がサドラーズ系のモチベーターと言う配合馬。
母系にスピード強化血統を持つことが必須とも言える
ダービーで、母父サドラーズは鬼門の血統。
これは苦戦して当然の血統構成。

今回は、直線の切れ味よりも、最後までバテない
スタミナ・持久力が求められる舞台。
人気ではありますが、逆らえないなら本命に。

○13番グラティアスは、ハーツクライ×母父ダンチヒ系の配合で、

この配合はコース相性が非常に宜しゅうございます。
ハーツクライのような、母系から欧州血統の影響を、
強く受けた種牡馬の産駒の場合、母系にスピード志向の血を
補完されている事で、このコースでの好走率が上がります。

ダービーでは8着に負けましたが、母はアルゼンチンの
G1ヒルベルトレナ大賞(芝2200m)を勝っており、
半姉レシステンシア(父ダイワメジャー)は1400m重賞を
レコード勝ちしている「非根幹適性」の高い牝系でございます。

父ハーツクライの成長曲線を考慮すれば、
3歳秋以降に本格化する可能性は十分で、
晩成タイプは完成期を迎えると、母系の適性を
前面に出して来ることも非常に良く有るパターン。
少々過剰に人気しておるようにも思えますが、
ここでの変わり身に期待したいと考えます。

▲12番ソーヴァリアントは、かつて当コースの上位種牡馬であった
ステイゴールドの後継種牡馬オルフェーヴル産駒でございますな。
母父がロベルト系シンボリクリスエスと言う事で、配合的には

少々スピードに欠けるイメージではありますが、母も半姉もマイルG1でも好走していたスピード能力のある牝系。

札幌で連勝し、不良馬場の当コースで勝っているあたりパワーと持久力に優れたタイプの可能性もありますが、能力はメンバー上位であり、軽視は危険かと・・・

★14番ワールドリバイバルは、牡馬のコース複勝率5割を誇るエピファネイア産駒で、母父にPサンデー系アグネスタキオンの配合馬。

ややパワーに比重の傾くエピファネイアを父に持つ場合、このコースでは母父にスピード型のサンデー系を持つのが理想的。

実際、エピファ×Pサンデーの配合馬は当コースの複勝率は100%でございますな。

また、前走ダービー負け組に次いで、セントライト記念で成績優秀なのが

前走ラジオ NIKKEI 賞組でもあり、

何よりも本馬の牝系は、ディープインパクト、
レイデオロ・レイエンダの兄弟が出ておる優秀な牝系。

そのレイデオロは、当コースのG2オールカマー勝ち馬で、
レイエンダはこのレースの2着馬でございますな。

以下、前走ダービー大敗組(複勝率57%)の3番・4番と、
デムーロ殿のコース適性を評価して8番。
最低でもこの3頭は押さえておきたいところ。